

公益財団法人日米医学医療交流財団 留学助成

研修報告書 (2016年度 助成者)

作成日 2016年10月4日

氏名	種子島 七海
研修先機関名	<u>Hawaii Tokai International College</u>
研修期間	2016年8月15日(月)～20日(土)
大学名 学年	東京女子医科大学 5年

医学部夏期集中医学英語研修プログラム、という名が付いているように今回のプログラムでは医学英語をかなりしっかりと学び、利用しました。医学英語を学ぶということでしたが、**case presentation** を発表できるようになることが目標でした。日本の医学生がアメリカ留学をした際に **case presentation** をすることに慣れていないため、正当な評価を受けづらいため、学生のうちから正しい発表を出来るように教えることで日本人学生の国際化を図るとというのがコンセプトでした。このプログラムは他の留学プログラムと比較して対象を5年生・6年生としているため、学べる医学英語のレベル、要求されるパフォーマンスレベルなど全てが高く、本当に自分の為になるものでした。参加者の意識も高くみんなで頑張ろうという雰囲気でも5日間過ごせたことも良かったのですが、そういう気持ちを高めてくれた教授陣が素晴らしかったです。参加者のモチベーションは比較的高くはありましたが、そもそも **case presentation** が一体どういうものなのかさえわかっていなかったため、その定義・目的・行い方から教えてもらいました。このような状態でプログラム目標を達成できないのではないかと不安でしたが、説明と実践を重ねていくことで5日間が終わるころには自信を持てるようになりました。日常では直接教えるを請う事など決してできないような沢山の先生方から、贅沢にも直接教えていただきました。とにかく実践し、現地の先生方から正確なフィードバックを得る事を何度も繰り返すことで結果がついてきたのだと思います。自分が苦勞している時には、周りの参加者に助けられその逆もあるというメンバー同士も非常に良い雰囲気で終わることができました。

このプログラムの良いところは、教授陣の他にも参加者のレベルの高さと多様性もあると思います。まず、今回のプログラムは上級生がかなり多かった為、医学的知識のばらつきがほとんどない状況だったのですぐに症例についてディスカッションを行うことができました。英語ではわからなくても知識はあるのでついていくことができました。個々の参加者では、**USMLE** に向かって勉強を励んでいる人、帰国子女の人、団体活動を行っている人、皆英語のレベルを向上させたいという気持ちを持っている人が集まっていたため、英語力を鍛えたいという気持ちがより一層高まりました。また、前述したように様々なバックグラウンドを背景に持っている人がいたため、今回のプログラムにかけている気持ちを聞くことで自分がより一層頑張っていこうという気持ちになれたことが素晴らしかったです。日本中の医学部から学生が集まったため、各地に知り合いができたということも一つの大きな収穫だったと思います。今はこのつながりがどう生かされるかわかりませんが、少なくとも学生として日本中に知り合いがいるとそれだけで嬉しいものです。

今回、参加するにあたってこのプログラムを作ってくれた関係者の方々すべてに感謝したいと思います。ありがとうございました。